

特集

・特定地域づくり事業協同組合の役割について
〈職員の業務紹介&櫻田代表理事へインタ
ビュー〉

広報

なかとんぼ

No.756

2022 12 December



○町民交流団が広島県大崎上島町へ訪問した時の様子町民交流団が広島県大崎上島町への詳細は、P8「まちの話題」をご覧ください。

小さな中頼別の
しあわせをデザインする



特定地域づくり事業協同組合の役割について 〈職員の業務紹介&櫻田代表理事へインタビュー〉



写真：11月21日なおみちカフェ in 中頓別町

令和元年度にスタートした「過疎地域における働き方改革プロジェクト」では、移住者の受け入れ促進に向けた環境づくりに取り組んでおり、移住に関するワンストップ窓口として「中頓別町くらしとじごとの相談窓口」を開設しました。

今月号では、中頓別町くらしとじごとの相談窓口の役割や機能について、また、令和4年4月より事業を開始した「中頓別町特定地域づくり事業協同組合」について紹介します。

中頓別町くらしとじごとの相談窓口の機能

移住を検討する方は、移住先での「生活」や「しごと」など様々な不安をかかえています。また、その不安を解消するための情報を必要としています。そういった方々へ、中頓別町の様々な情報をお届けするため、町は「中頓別町くらしとじごとの相談窓口」を開設しました。お届けする情報は、「生活」については、中頓別町で暮らす方々の普段の

生活の様子、住宅情報や子育て支援サービスなど、「しごと」については、「中頓別町無料職業紹介所」や「中頓別町特定地域づくり事業協同組合」の設立・運営など多岐に渡ります。移住を検討する方へこのような情報をお届けすることで、中頓別町に移住し暮らす、もしくは働くイメージを持つことができる。ともに、新しい生活環境に対する不安の解消をサポートし、ことを気軽に相談できるよう、ワンストップ窓口としての役割を持つ機関です。また、中頓別町くらしとじごとの相談窓口は、移住を検討する方が必要な情報をまとめ、町の風景や生活の様子、仕事が思い描けるような写真を掲載した専用WEBサイトを作成し、必要な情報を容易な形式で一元的にお届けし、移住を後押しします。

中頓別町無料職業紹介所とは？

移住を検討する方は、移住先でのしごとについて不安をかか

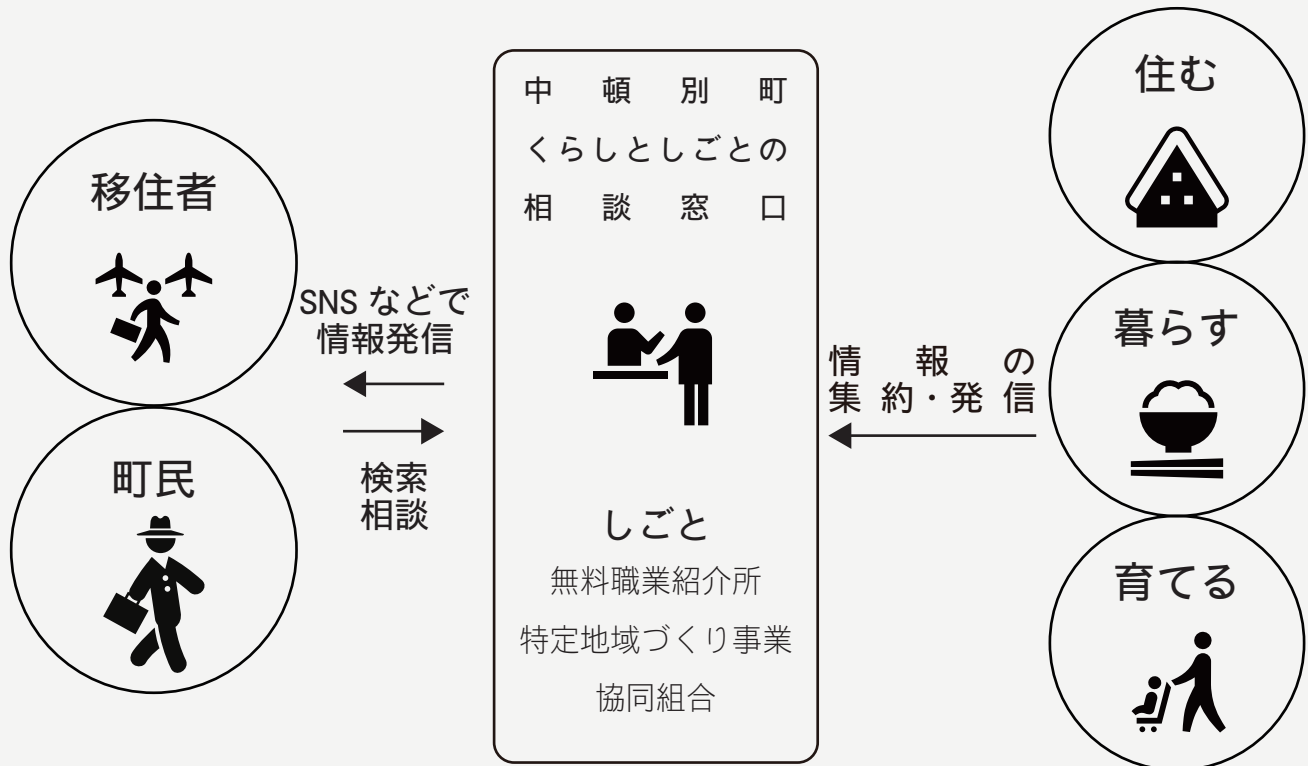
えていることが多いことから、町内の「求人情報」を提供するため、令和3年3月に「中頓別町無料職業紹介所」を開設しました。これにより、町内の事業者は求人情報をいち早く発信でき、求職者は資格や経験を活かした就業場所を見つけやすくなりました。さらに、求職者が望む働き方に合わせて事業者に勤務時間の調整などを依頼し、双方の希望に合う就業マッチングを実施しています。今後は、短時間労働など様々な求人情報を発信することで、移住を検討する方をはじめ町民の方々のライフスタイルに合わせた多様な働き方を実現できるよう、取り組みを進めていきます。

中頓別町特定地域づくり事業協同組合とは？

中頓別町をはじめ多くの地方の事業者は、繁忙期の労働力不足に悩まされています。一方、閑散期の労働力は足りていることから、繁忙期の労働力を基準とした通年雇用

中頓別町くらしとしごとの相談窓口の機能

移住者や町民の方に向けて、「しごと」、「住む」、「暮らす」、「育てる」をテーマに情報発信し、持続可能な地域社会を目指す。



はなかなか踏み切れず、多くの事業者が求人と雇用のバランスに苦慮しています。こういった地方の課題に対処するべく、令和2年6月に「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」が施行され、労働者派遣事業を届出制で実施することが可能となりました。

ともあります。様々な就業先で多様な仕事に従事する「マルチワーカー」として、町内事業者の人手不足解消のお手伝いをしています。組合では、職員が働きやすい職場となる様、兼業や副業、週休3日制や時短勤務も選択することが可能です。

今後の課題

組合は、町内事業者の労働力不足を解消することが第一の目的です。また、働く職員の安定的な雇用確保と暮らしの充実がもう一つの目的でもあります。これらの目的を達成するためには、組合事業の認知度の向上や、労働力に対する需要と供給のバランスを定量的に確保することが重要です。組合職員が町内事業所へ転職したり、起業・事業承継するなどの町内での好循環を生み出せるような環境づくりが、今後の課題と言えます。

次ページからは、組合職員2名の紹介と、櫻田代表理事のインタビューを紹介します。



写真：久保田さん仕事風景

久保田 洋さんが特定地域づくり事業協同組合へ就職したきっかけ

令和4年4月から特定地域づくり事業協同組合の職員として、町内の事業所に派遣されている久保田 洋さんに特定地域づくり事業協同組合に就職したきっかけや現在の仕事内容をうかがいました。

久保田さんは、フリーカメラマンとして、企業や出版社から依頼を受け、人物などを中心に写真を撮る仕事をしていました。将来、田舎で暮らすことを考えていた久保田さんは、フリーカメラマンでは、田舎で生活が出来ないと思い、様々な仕事の出るマルチワーカーであれば、フリーカメラマンとしてのコミュニケーションスキルを活かすことが出来ると思い、特定地域づくり事業協同組合へ就職しました。

仕事内容について

仕事内容は、正田建設株式会社での施工管理に関わる測量や

工事写真撮影の補助や株式会社細谷建設での道路維持・管理業務、南宗谷福祉会長寿園での厨房業務など多岐に渡っています。特に中頓別・浜頓別町森林組合での作業や中頓別地産地消での薪づくりの作業が印象に残っていると話してくれました。

中頓別・浜頓別町森林組合では、山へ行き、斜面の雑草刈り作業などを行いました。斜面を登ったり、下ったりしながら、苗木を切らずに雑草だけを草刈り機で刈らなければならぬことや草刈りをしていく中で地面に八チの巣があり、八チに刺されるなど大変な作業です。一方、草刈り機の燃料を補給する時や休憩時には、山の静けさを感じられて心地良かったと話してくれました。

中頓別地産地消では、10メートルラー5台分ぐらいの原木から薪を作る作業や運搬作業などを行いました。自身で森林を切り拓いているという感覚や達成感がありましたと話してくれました。



写真：鎌田さん仕事風景



鎌田 桂介さんが特定地域づくり事業協同組合へ就職したきっかけ

令和元年9月に中頓別町の地域おこし協力隊として一般社団法人なかとんべつ観光まちづくりビューローに着任し、主に食彩工房もうもうでなかとん牛乳の製造など担当していました。令和4年9月に任期満了となり、今後の人生について考えたところ、「この街に住みたい」「牛乳製造に関わっていたい」という想いが強く、また、人手不足に悩む町内事業者の手助けができればとの思いから、令和4年9月に特定地域づくり事業協同組合に就職しました。

仕事内容について

特定地域づくり事業協同組合での仕事内容は、南宗谷福祉会館での厨房業務や株式会社細谷建設での道路維持・管理業務、中頓別地産地消での薪づくりなどがありました。このような業務の中で、特に、

ヤマフクコーヒーでの接客業務やコーヒー豆の袋詰め作業、軽食づくりなどにやりがいを感じていると話してくれました。初めは、ドリップの種類など覚えることが多く、苦慮したこともありましたが、今では覚えることができ、また、コーヒー豆などの重たい荷物を運んだりするなど楽しく仕事に取り組んでいると話してくれました。



今後について

特定地域づくり事業協同組合は、職員として継続して勤務することはもちろん、自ら起業したり、縁のあった企業への転職も可能ですが、就職してからまだ数カ月でもあるので、当面は地域づくり事業協同組合に勤務し、副業でなかとん牛乳の製造にも携わっていききたいと話してくれました。



写真：櫻田代表理事

特定地域づくり事業協同組合、代表理事であり、中頓別町商工会長でもある櫻田守さんに特定地域づくり事業協同組合の役割や今後の期待などについて話をうかがいましたので、ご紹介していきます。

中頓別町の商工業について

中頓別町も昔は、今と違って、人口も多く、中頓別町内にお店も多くありましたが、人口減少と共に地域内での町民の購買力が低下してきています。また、近年では、近隣市町村の大型スーパーを活用したり、ネットショッピングの普及による利便性の向上から、町民の選択肢も増えてきており、ますます、地域内での町民の購買力が低下してきています。さらに、町内企業の経営者の高齢化から事業継承にも遅れが出てきており、現在直面している事業継承の問題や目抜き通りの空き店舗の問題が顕在化してきています。既存企業の販売力を強化していくためには、時代に合っ

た販売を行うことや発想を活かして行く必要があると話されました。

特定地域づくり事業協同組合の役割

しかしながら、販売力を強化していくためには、人材の確保が必要ですが、町内の企業で、通年雇用が可能な企業とそうではない企業があります。このため、繁忙期に人手不足を解消できる特定地域づくり事業協同組合の役割は大きくなります。特に、特定地域づくり事業協同組合に「ターンやUターンで就職する職員が多くなれば、地域内の担い手の確保や起業、事業継承を促進できるのでは」と期待しています。特定地域づくり事業協同組合は、企業のニーズに合わせて、働き手と企業をマッチングさせる仕組みです。加入する組合員の企業の職種には、建設業や接客業などありますが、職種がまだまだ少ないという課題があります。櫻田代表理事は、「特定地域づくり事



写真：裁断機での作業風景

業協同組合へ加入する企業が
増えれば、職種は増えることは
もちろん、組合職員に様々な
企業風土や町内での役割を知っ
てもらえること、企業にとっ
ても魅力発信につながり、事業継
承や新たな起業へ繋がるのでは
ないか』と話されました。

今後の期待について

特定地域づくり事業協同組合
の取り組みは、職員はマルチ
ワーカーとして、町内企業の販
売強化につながることに加
え、移住定住促進にもつながる
ことが期待できます。この取り
組みがやがて、事業継承や空き
店舗問題の解消につながり、中
頓別町の商店街を再興してい
ければと期待しています。また、
商工会としても企業の空き店舗
問題に取り組んでおり、新たに
起業したい方や短期的・試行
的に販売など行いたい方で、空
き店舗を使いたい場合などに
は、商工会へ相談して欲しいと
話しており、町内の商工振興へ
意欲を表していました。

□ 有限会社 天北印刷工業の歴史

先代の櫻田 繁さんが、「櫻田印刷所」として、昭和 32 年に操業を開始しました。昭和 45 年には、「有限会社 天北印刷工業」となっています。平成 11 年より、櫻田 守さんが 2 代目として、事業を継承し、平成 15 年ごろから、オンデマンド印刷を開始し、看板やシール、のぼり、中頓別町広報誌の印刷、車のラッピングなども行っています。

従業員は、現在 5 名で、繁忙期である 11 月から 12 月、2 月～3 月ごろに特定地域づくり事業協同組合に職員派遣を要請する予定です。